



第117号

**2014-2015年度 主題**

国際会長：Wichian Boonmapajom “Mission with Faith”

「信念のあるミッション」

アジア会長：Edward K. W. Ong “Through Love, Serve”

「愛を持って奉仕しよう」

東日本区理事：渡辺 隆 「原点に立って、未来へステップ」

湘南・沖縄部長：今城高之 「一人ひとりが愛と平和の種をまこう！」

クラブ会長：辻 剛 「初心に帰り、世のため、人のため」

—喜びと楽しみを求めて—



**今月の聖句**

「若者も倦み、疲れ、勇士もつま  
ずき倒れようが、主に望みをお  
く人は新たな力を得、鷲のように  
翼を張って上る。走っても弱るこ  
となく、歩いても疲れない。」  
(イザヤ書 40:30-31)



**「隣人のために生かされていることの喜び」**

鈴木 茂

私どもの横浜つづきワイズメン&ウィメンズクラブは、今年チャーター10周年を迎える。私は教会仲間の林 茂博さんに誘われてチャーターメンバーになったが、ワイズ歴としてはほんの10年に過ぎない。まだまだ未熟なワイズメンである。それなのにこの間、クラブ会長を2度、湘南・沖縄部の書記、部長、東日本区の会員増強事業主任を担当させていただいた他、横浜 YMCA

の常議員に推挙された関係で、同YMCAのさまざまな委員、委員長のお役が回ってきた。さらには日本YMCA同盟の代議員、YMCA 史学会理事なども仰せつかっている。また、ワイズ、YMCAとの直接の関係はないが、自治会の会長などの役員、日本キリスト教団認可神学校の監事という職責も加わってしまった。こうしてこの数年間私は、週の大半は何らかの会議、行事で外出する生活を余儀なくされている。

これは、私が想定していた定年後の生活とは全く異なったものである。私が描いた定年後の生活は、健康が許すかぎり、水彩画とか囲碁といった趣味に挑戦し、時間を見つけて妻と海外旅行等に出かける、といったごくありふれたものであった。しかし、そうした機会はなかなか巡ってこなかった。私はいらだち、戸惑い、困惑する時期がしばらく続いた。

ところが最近私は、これでいいのだと考えるようになった。私たちはワイズや YMCAを通して、何らかの形で助けを必要としている人々へのボランティア活動に参加させていただいている。現に横浜つづきクラブでは、障がい者とともにクラシック音楽を楽しむ”You & I コンサート”を毎年開催し、既に5回を数えた。また、東日本大震災以後、被災地の一つである宮城県亘理郡山元町の老人施設や保育園を定期的に訪問している。さらに、当クラブの多くのメンバーは、介護老人施設での「傾聴活動」、障がい者グループホームでの「献立・調理」「送迎活動」、あるいは不登校・ひきこもり児童等支援団体における学習支援活動に参加している。私自身はほとんど何もしていないだけに、当クラブの会員の日頃の熱心な奉仕活動には、本当に頭が下がる思いがする。

それにしても私たちの周りには、何らかの助けを求めている人々が実に多くおられるという事実、私は改めて気付かされた。現に助けを求めている方々がおられることを知った以上、その方々に手を差し伸べることは、人間として当然であり、何か役にたつことができれば私たちの大きな喜びであり、幸せである筈である。困難な状況にある方々のために役立つことができるならば、それは私たちの生きがいとなり、その分だけこの世に平和をもたらすことになるのではなからうか。私たち自身、生まれてこのかた、実に多くの人々のお世話になり、その恩恵を受けてきた。今度は私たちがお世話する番であり、周りの人々に恩返しをしなければならない立場にある。(2 ページに続く)

前月データ

例会出席	多数	在籍会員数	18名	各種記録	前月	累計
メンバー	10名	月間出席数	17名	使用済み切手	100g	200g
ビジター	名	メーキャップ	7名	プルタブ	3.4kg	10.4kg
ゲスト	名	月間出席率	94%	スマイル	13,000円	48,922円

2016年1月本例会

日時：2016年1月22日(金)

18:30~20:30

場所：かけはし都筑

受付(報告書)：林 茂博

司会：岡崎さよ子

プログラム：

開会点鐘 辻 剛会長

ワイズソング・信条 一同

今月の聖句 相賀牧師

ゲスト・ビジター紹介 司会者

会長挨拶 辻 剛会長

\*クラブ総会

議長：辻 剛会長

総会(会員の3分の2以上の出席により成立)12名以上の出席で成立

議案

◇ 次期役員を選出に関する件

各種アピール

スマイル

YMCA報告 生井担当主事

誕生祝い

1月1日 横田洋生さん

1月23日 金城弘子さん

(休会中)

閉会点鐘 辻 剛会長

~~~~~

□懇親食事会：

「ピッツァ サルヴァトーレ

クオモ」

ゲスト・ビジターと共に、

楽しい親睦の時をもちますので、ご参加ください。

その意味で、少しオーバーな表現をすれば、私たちの人生の価値は、その動機は何であれ、「己自身ではなく、隣人のためにどれだけ自らの労力と資力と時間を割いたか」によって評価することができるように思われる。

～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～

### <会長年頭所感>

辻 剛

横浜つづきクラブの皆様

新年明けましておめでとうございます。皆様、ワイズメンらしく爽やかに新しい年をお迎えになられたと思います。

私もクラブ会長を仰せつかって早や半年が経ちました。今年の5月13日には我がつづきクラブは創立10周年を迎えます。また、2015-16年度は当クラブから湘南・沖縄部長を出しておりますが、理事の方針もこれあり例年に比し部が活発に動いているように感じています。部、クラブが活性化されればワイズの未来は極めて明るいと信じ、新年のメッセージを送ります。

最近、何か急に「部の活性化」が云われ出したように感じている人もいるかも知れません。もともと「東日本区では区の発足以来、部の働きを重視しており、事業主査の積極的な活動のもと各事業が推進されてきました。」と「部長マニュアル」も述べています。しかし、これまで部も事業主査も必ずしも期待された働きはしていなかったのが現実だろうと思います。それは多分時代がそこまで要求していなかったのだと思います。「区」中心の運営で良かったのです。日本の社会は人口も経済も右肩上がり成長を続けていましたからそれで良かったのです。

しかし、今、ワイズの世界だけでなく、日本の社会が高齢化、少子化、人口減少、等の問題を抱えて、状況は大きく変わってきています。地方から都市への人口移動と少子化が原因で将来、多くの市町村が消える恐れがあるなども云われています。地方（地域社会）が衰退していく中でワイズメンズクラブや部だけが生き残っていくことはあり得ない訳で、われわれワイズは地域社会の人々とともに地方再生・地方創生のためにその責務の一端を担いながら共生していくべきだと思います。

ご存じのように組織には共同体と機能体があります。共同体とは家族、地域社会、あるいは趣味の会等です。一方、機能体の典型は企業です。人間社会で、最も基本的で最小単位は「家（家族）」で、最高は「国家」です。「地方（地域社会、市町村）」も共同体です。

現在われわれが直面している市町村消滅の危機は、この家（家族）と地方（地域社会）という二つの「共同体」の弱体化によって引き起こされています。かつては「家」は生産共同体として、子どもが生まれ育ち、財産の増大が「家」の繁栄のために必要不可欠であると考えられてきました。

ワイズの世界で最も基本的な共同体はクラブであり、地域社会は「部」に該当するのではないのでしょうか。ワイズでいえば、新しいメンバー（子ども）が増えることが、クラブ（家）という組織の維持のために必要不可欠なのです。家族（クラブ）、地域社会（部）など共同体は、それを構成する人々の満足追求を目的としています。そ

の目的を達成するために地域の人口問題は無視できません。つまり共同体が一部機能体的性格を帯びてくるのです。ここは「趣味の会」など純粋な共同体とは多少違ってきます。ワイズメンズクラブもその理念や目的に基づく様々な奉仕事業を推進しています。その目的を達成するためにはある程度の規模のメンバー数を維持しなければなりません。

「家族」に対する価値観も時代によって変化するのは致し方ないことですが、戦後は大家族制が崩壊し、核家族化が進み現在の危機に直面しているといえます。その結果、大家族制の中にあつた家族の絆が軽視される傾向になってしまったのです。地域でも同じことが云えると思います。（もちろん、戦前の古い大家族制度そのものに戻るべきだというわけではありません。かつての大家族制の中に一部見られた古い封建的な共同体を目指すのではなく、個人やその自由は尊重されなければなりません。）

それではわれわれはこの危機を回避するためにはどのように対応していけばよいのでしょうか。多分、答えは簡単には出ないと思います。ただ基本的な考え方として最も大切なことは、今後は連帯や助け合いの絆を尊重する精神を復活させることが必要です。人々がともに考えて行動することが大切になります。今後このような考え方がますます重要視されてくるでしょう。

お互いの信頼や絆が強く、様々なボランティアや助け合いが重要視され、活発に話合つて「村起こし」や「町起こし」など様々な活動のシーンにワイズとして係わりたいと考えます。昨年11月のクラブ本例会の卓話で東京ベイサイドクラブの堀江和広さんからクラブ設立の体験談を伺いましたが、地域のコミュニティー形成に寄与することが、EMCにとって如何に重要で効果的か強調されたのは皆さんも記憶に新しいと思います。幸い各地のYMCAは常に地域の課題に取り組みコミューニティーの形成に寄与しようとしています。YMCAとの協働によりワイズも新しい地域作りに参加できると思います。

そういう意味では、最近急に「部の活性化」が云われ出したのではなく、東日本区設立時の原点に復帰しただけで、まさに時代が要求しているのだと思います。「日本ワイズメン運動70年史」も「ワイズは社会から隔離した集団でなく、社会の真っ只中であつて事象に影響を受けて存在している」と述べています。ワイズが時代や社会の変化に組織として対応していくことは当然のことなのです。

親睦と奉仕を通してお互いが切磋琢磨して人間性を高めるといふ、高い精神性を持つワイズメンズクラブは益々脚光を浴び、必要とされることとなります。皆さん、今や、ワイズの出番です。勇気と希望をもって頑張りましょう！

**<12月本例会報告>**

日時:2015年12月17日(木) 18:30~20:30

会場:湘南とつかYMCA

参加者:相賀、今城T、岡田K・M、鈴木S、辻Ts、生井、  
林S、山添、横田

今月の例会は横浜YMCA合同のクリスマス礼拝となった。タイトルはくすべての人が一つとなるように> 第一部の礼拝はスクリーンに富士山YMCAの鐘の点鐘が映し出されて始まった。

前奏に続き聖書朗読がイザヤ書・ルカによる福音書・マタイによる福音書・ヨハネによる福音書がそれぞれ6名による朗読され、朗読の合間に讃美歌を歌い、クリスマスメッセージを日本バプテスト同盟大師新生教会の益巖(ます いわお)牧師から「幼子からの三つの贈り物」と題して頂いた。

インドのクマール氏の8,000マイルにおよぶ世界を歩いたことを例に、あらゆる宗教に偏見を持たずお互いを尊敬しあって平和を築こうとのお話であった。

また、自身の付属幼稚園での7名の児童との交わりを通して、特に三つの賜物を得たとの事。

1:7名の児童が毎日園舎のぞうきんでの掃除を体力増強を兼ねて行っていて、礼拝堂の掃除も自主的にやるようになった。教員とのコミュニケーションがより深くなった。また掃除を通じて児童の心が大きく育った。

2:土に触れる事を目的に芋を植えて育てた。11月の刈りいれの時、芋だけでなくツルを残して乾燥させてクリスマスリースを作ったり、茎を料理して収穫を感謝した。

3:運動会も行なわれたが、7名での開催に場所を含め迷った。しかし卒園者や父兄の応援もあり130名の参加で、学校の運動場で行なわれた。多くの人々たちの力が集まって盛会であった。

以上の三つ出来事を通して諸々の問題はお互いに認め合い尊敬しあう心を持って、神が見守ってくれて、息子イエスを世に送り、我々人類の糧として先頭を歩んだことをクリスマスを迎える今、感謝したい。との説教であった。

次に「きよしこの夜」や「もろびとこぞりて」の讃美歌を歌い礼拝は終了。

第二部はクリスマス祝会がホールであった。

YMCAの保育園の栄養士の皆さんの手作りのお料理やお寿司、ビールが振舞われた。横浜クラブから例年のBAPY献金も披露された。

当日横浜YMCAに来年4月入職される約30名の若い気あふれる若者も参加し、和気藹々楽しい交わりを持たれた会であった。

後記:我がつづきクラブの例会ではあったが、特にウィメンの方々がそれぞれの故障を訴えての欠席であったことが、残念ではあったが、一刻も早くの回復を同時に祈り、新しい年を迎える準備の会でもあった。

(横田 孝久 記)

**<1月事務例会報告>**

日時:2016年1月12日(火) 18:00-20:15

会場:田園都筑教会

出席者:今城 T・H、岡崎、岡田 K・M、久保、鈴木 S・K、田中、  
辻 Ts、林 S・M、福島、横田

ゲスト:高松満至さん

開会・黙祷に続き会長挨拶  
協議

1) 次年度クラブ人事の件

今城宏子さんの副会長(次期会長)受諾を感謝を以て承認。他のクラブ役員・委員について別紙により林S次期会長から提案され、総会に諮ることを承認。

2) 各種献金の件

鈴木S会計から提案された東日本区への献金額につき協議。今年度は重点配分の会長方針が示され、辻会長と鈴木会計で協議し献金額を決定する。

3) 合同新年会最終確認の件

当日のプログラム・役割分担につき協議し、信仰の流れ・各人の任務を決定した。

4) 各チームのスケジュールの件

記念例会はシンポジウム開催を骨子とする企画を承認。パネラーの招請・広報活動を開始する。会員増強は、具体的活動計画が提案され、総会で協議することを決定。

5) 強調月間(IBC/DBC)の件

本例会で担当委員がアピールする。

6) 1月22日本例会(総会)の件

議案は、次年度クラブ役員人事の件のみ。その他は協議事項とする。ビジター・ゲスト来訪。

7) 1月30-31日沖縄訪問の件

他クラブからの参加が、非常に少ない。

報告・連絡・確認事項

1) 1~2月の行事予定、半年報提出について確認。

2) 卓話者

2月 北Yリーダー(スタッフ)

3月 ニコグサイズ・インストラクター

4月 太田勝人氏(東京世田谷クラブ)

6月 中野祐子氏(原町教会伝道師夫人)

3) CS活動実績報告

1月第1週は、お休みとした。

4) CS活動予定・担当者確認

送迎ボラは、原則毎週火・金曜だが、依頼者の体調により実施。

新年会予行(余興)練習

久保さんのギター、今城宏子さんのキーボード伴奏で、新年会の「みんなで歌おう」の曲を練習。スクリーンに映写する歌詞のPPTテストも行う。

閉会后、「一心」にてクラブの新年会を兼ねて懇親会を持った。年末に体調不良だったメンバーも顔を揃えたが、辻孝子さんだけは療養継続中で、快癒を祈った。

(林 茂博 記)

**<2016年在京ワイズ合同新年会参加報告>**

日時：2016年1月9日(土) 12:30~15:30

会場：桜美林大学多摩アカデミーヒルズ

会費：5,000円

参加者：133名(内横浜つづき3名)

好天に恵まれた1月9日、久保勝昭さん、辻 剛さんと共に在京ワイズ合同新年会に出席した。総参加人数は133名との発表があり、70名程度の横浜YMCA-湘南・沖縄部合同新年会とは規模が違くと改めて感心させられた。



最初に礼拝が行なわれ、桜美林大学チャプレン・専任講師 薛 恩蜂牧師により、「新しい年、自分のタレントを生かして生きよう」と題する奨励があった。有名な「マタイによる福音書 25章 14~30節」(タラントのたとえ話)をテキストに、私たちはそれぞれ異なった才能を神から与えられているので、それを十分活用してワイズのため、YMCAのために尽くそう、との励みとなるメッセージであった。礼拝献金は東日本大震災復興支援のために捧げられた。

懇親会に入り、はじめに東京YMCA・廣田光司 総主事、東日本区・渡辺 隆 理事、日本YMCA同盟・島田 茂 総主事の祝詞があった。特に渡辺理事からは、今期12月までの東日本区会員数は39名の新入会、ご逝去等による10名の退会で、純増29名になっており、この勢いを今後も続けたいとのご挨拶があった。

利根川恵子・次期東日本区理事による乾杯の後は、和やかな会食・懇談の時となった。私自身は今回、東京コスモスクラブを中心に新設が進められている(仮称)「多摩センタークラブ」の会員候補として推薦している石田孝次さん(元職場の同僚)が、在京新年会に出席してくれていたため、彼が正式にチャーターメンバーになることを願いつつ、数名のワイズメンに紹介させていただいた。



私ども3名は、横浜YMCA-湘南・沖縄部合同新年会に備え、会場ホテル側と最終打合わせ会を行なうために、少し早めに懇親会場を退席させていただいた。

(鈴木 茂 記)

**<10周年記念例会の骨子>**

全体プログラム案

開催日時：2016年5月21日(土曜日)~22日(日曜日)  
(21日のみの日帰り参加可)

場所：富士山YMCA

東海道新幹線・新富士駅から送迎あり

5月21日(土曜日)

13:00~13:50 10周年記念例会  
記念撮影

14:00~16:00

**「東日本大震災  
あれから5年、今後の支援を考える  
シンポジウム」**

16:30~18:00

**BBQパーティー**

(日帰りの方は、送迎車へ)

19:00~22:00

室内懇親会

5月22日(日曜日)

7:00~7:30

早天礼拝

8:00~9:00

朝食

9:00~11:00

グループに分かれて、自由活動

11時頃、現地解散

**「東日本大震災****あれから5年、今後の支援を考えるシンポジウム」**

・開催趣旨

大震災後5年を経過し、日ごとに大震災の記憶が薄れ、困難の中にいる被災者がおられるにもかかわらず、支援の輪は縮小し、このまま風化してしまう恐れがある。

ワイズ・YMCAとして今日まで続けてきた様々な支援活動を、今後どのように考えるのか、広く呼びかけを行い、被災地の現状を再認識し、方向性を模索したい。

・パネラーとして、被災地のYMCAおよびクラブの代表者、支援活動の経験者などを招請し、復興途上にある現地の最新情報と変化してきたニーズを共有化する。

それを踏まえて、今後私たちに来る支援活動・協力体制について協議する。

➤ 前半1時間を、パネラーのプレゼン

➤ 後半1時間を、参加者との意見交換会



新緑の輝き溢れる富士山YMCAに、みなさんお出で下さい。お待ちしております。

(林 茂博 記)

## &lt;IBC便り&gt;

デンマーク・ランーズクラブとブルガリア・プロヴィデフクラブから、クリスマスと新年の挨拶が届きました。

## Christmas &amp; New Year

Dear Mr. Suzuki and all friends in the Y's Men & Women's Club of Yokohama-Tsuzuki,

It is long time ago, but you are not forgotten. I have been a little lazy and therefore I did not write to you before.

Now Christmas and a New Year are coming, and we in Randers want to send you our best wishes for the new year and a peaceful and blessed Christmas.

In our club we still are 19 members, but all are one year older, and some of us are hit by illness. But we still hope on a better time.

Yesterday, Sunday, we ended the program for the 2015 with a service in a church and a lunch together. It was a good day.

My self and my wife, Anne Marie, have in the autumn been two times abroad. First one week in Barcelona, Spain, and in November we were two weeks in Turkey. Both tours were very exciting. In Barcelona we saw the huge churches, still in action, and in Turkey the ruins in Efesos, where St. Paul went and talked 2000 years ago. It was interesting with the history, and it was nice to feel the 20 degrees warm weather.

Here in Denmark we have cold, wet and blowing weather now.

We hope all the best for you and send the warmest greetings

from Randers Y's Men's Club.

Yours sincerely



Leif Repsholt

クリスマスと新年のご挨拶ということですが、ランーズクラブでは先日・12月6日の日曜日に、礼拝と昼食会を行ない、今年のプログラムを終えたようです。

ライフさんご自身は、今年のご夫人とスペインとトルコへ旅行された由。スペイン・バルセロナでは現在も使用されている巨大な教会を見物し、トルコのエフェソでは2000年前にパウロが説教したとされる廃墟を見学した事等が書かれています。

Dear Shigeru Suzuki,

We wish you Merry Christmas and Happy New

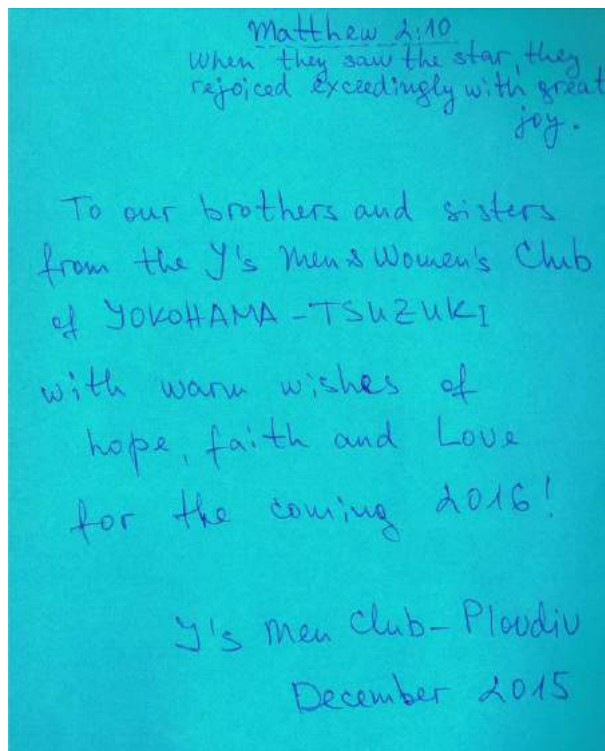
2016!

Thank you for friendship and support that you gave to Y's men club Plovdiv in 2015!

We appreciate a lot your contribution and wish you successful work next year!

Valentin Adjelarov

ブルガリアのプロヴィデフクラブからは、いつも手作りの心のこもったカードが届きます。



今年の国際大会は、台湾で開催されますので、デンマークとブルガリアからの参加者があるよう願っています。当クラブの10周年の記念事業についても、連絡を取って、メッセージを寄せてもらうように働きかけ、なかなか遠距離で顔を合わせる交流の機会がとれない、埋め合わせをしましょう。

(鈴木 茂 記)

＜横浜北YMCAだより＞

いつもの1月より暖かく、過ごしやすい日が続いてますね。皆様今年もよろしくお願ひいたします。

年末のウインターキャンプでは、雪不足に悩まされましたがクリスマス寒波により、子ども達がスキーなどを楽しむには、十分ではないものの何とか足りて実施することができました。幸いにも大きな事故やケガもなく無事に終えることができました。感謝です。

さて今年北YMCAでは、新たに「児童発達支援プログラム」がスタートします。トライアングルクラスの歴史を振り返りますと横浜YMCAで発達障がい児支援のクラスが開始されて20年目を迎えました。その間、様々な活動を通して、参加者の自主性や社会性、協調性を学ぶ機会や共に生きがいや、やりがいを見出す支援を行ってきました。

文部科学省の報告を見ると、学習面または行動面で著しい困難を示す児童は、通常学級に6.5%在籍していると報告されています。その様な社会状況の中で『障害者自立支援法』が見直され、未就学児を対象とした児童発達支援事業が確立されてきました。

現在3歳半検診の診断が精査されたことで診断が早くなり、早期療育の必要性が謳われるようになってきました。YMCAでも小さいころから参加しやすいプログラムを進めていくためにも児童発達支援事業を実施していきます。

発達障がいは、脳の機能障害からくる障がいであると考えられています。現在では発達障がいそのものを治療することは難しく、早期療育によって「二次障害」を予防すること、そして日々の生活の自律支援を進めていくことがプログラムの大きな目的となります。

北YMCAでは、トライアングルクラスで培ってきたものを大切にしつつ、新たなチャレンジとしての児童発達支援事業を進めていきます！

ワイズの皆様には、今年も今までと同様の力強いサポートとご指導をお願いしたいと思ひます。どうぞ、よろしくお願ひいたします。

※「二次障害」：子どもが抱えている困難さを周囲が理解して対応しきれないために、本来抱えている困難さとは別の二次的な情緒や行動の問題さが出てしまうものです。

《2月行事予定》

2月11日 YMCA会員大会

2月24日 ピンクシャツデイ

(横浜北YMCA 館長 生井知三 記)



＜第19回東日本区大会＞

日程：2016年6月4日(土)～5日(日)

会場：長野市若里市民文化ホール・ホテルメルパルク長野

・大会テーマ：「原点に立ち 未来の扉を開こう」



準備に勤しんでいる長野クラブを応援して、みんなで参加しましょう。

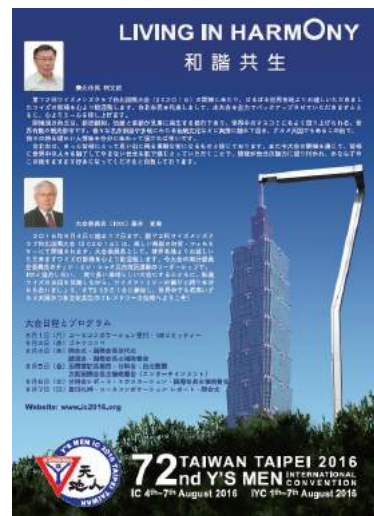
＜第12回国際大会＞

日程：2016年8月4日(木)～8月7日(日)

場所：台湾・台北市

登録費：2016年4月30日まで450US\$

5月1日以降は500US\$



後期会費の納入を、お願ひいたします。

横浜銀行 菊名支店 (普通) 1330228

2月は区費・各種献金の締め切り月です。

2月例会予告

2月本例会は、横浜北YMCAとの交流会として、第1部例会では北Yスタッフまたはリーダーからの卓話をいただき、第2部は、横浜北Yのスタッフ・リーダーとの懇親会を持ち、相互理解を深める機会とします。

本例会：2月26日(金) 18:30～21:00

例会場：中華料理・敦煌(会費3千円)

2月事務例会は、9日(火)18:00から田園都筑教会で行います。お年玉年賀切手シート・使用済み切手・プルタブをご持参ください。